



咲寿義輝 YOSHITERU SAKUJU

横浜家具製造メーカーの3代目として生まれ、大学在学中に留学を経てハウスメーカーへ就職。2004年に家業を継ぐために株式会社ダニエルに入社。職人による本物の家具作りと海外からの製品を輸入販売の他、家具修理専門の「家具の病院」、技術習得の場の「家具の学校」の運営に携わる。

プレゼンテーションを行った。

「もともと元町は、職人が商いをしてきたまち。職人さんの想いがこもったタイルが商店街のために使われるのは素晴らしいことだ」という思いを込めて説明し、誰からも異論なく熱意が受け入れられました」✓

商店街の新たな挑戦が評価され、デザイン賞を受賞

こうしてパークレットの計画は実現し、咲寿さんが代表を務める家具店「株式会社ダニエル」が施工を担当した。パークレットは商店街3箇所に設置され、深みと温かみのある“元町ブルー”のタイルが街並みに溶け込んでいる。

「ベンチに座ってお茶を飲んだり、友だちと語り合ったり、家族でくつろいでいたり、今までにない風景が僕らの目に入ってくるようになりました。今はあそこが駐車スペースだ

ったことを思い出せないくらい、商店街に欠かせない存在になっていると思います」

元町パークレットは、2020年に「第10回横浜・人・まち・デザイン賞」の「まちなみ景観部門」を受賞。古くからまちづくりに取り組んできた商店街が、新たな仕組みに挑戦✓

したことが高く評価された。

「実際にパークレットが出来上がったとき、本当に感動したんですよ。タイルの職人さん、施工やデザインも含めて、いろんな方々に無理してやっていただいて、それを見ていた商店街の皆さんから『やっぱり頼んで良かったよ』と言っていたとき、その言葉ですべての苦労が報われました」

咲寿さんは、元町で古くから家具の製造と販売、修理・修復に携わる株式会社

ダニエルの3代目。今回のプロジェクトに込めた思いをこう語った。

「僕と先代の父は、昔ここに住んでいなかったのですが、後から入ってきた“外様”のような疎外感を持っていました。商店街の活動にも参加できず、何か寂しいなと感じながら、大好きな元町のために貢献できることはないかなと思っていました。そんなときに商店街の理事長から『まちづくりに絡んでみないか』と声をかけられ、今回の取り組みに参画することができました。まちづくりを通じて、いろんな方との交わりができたのは大きな喜び。多治見で出会った職人さんのものづくりのストーリーを継続して発信していきたいと思います」